

## 『まちづくりフォーラム』～本当に住んで幸せなまちをめざそう～開催報告

### ●目的

本市の人口は現在増加しているものの、近い将来訪れるであろう、人口減少・超高齢化社会に前もって備えるため『戸田市立地適正化計画』の策定に取り組んでいる。計画の目標である「都市環境と自然環境が調和した生活の質を高めるまちづくり」のためには、今の利便性や快適性を含め、今後、新しく、どのようなまちづくりが必要となるのかを考えることに加えて、本市が策定する立地適正化計画を広く知らしめるために、「まちづくりフォーラム ～本当に住んで幸せなまちをめざそう～」を開催した。

### ●開催日時・会場

平成30年7月22日（日）午後2時から4時30分、市役所5階大会議室

### ●参加者

97名

### ●内容

- ・第1部 基調講演『テーマ：本当に住んで幸せなまちとは』  
講演者：LIFULL HOME'S 総研 所長 島原 万丈 氏
- ・第2部 戸田市立地適正化計画素案の概要説明  
説明者：都市計画課職員
- ・第3部 パネルディスカッション『テーマ：本当に住んで幸せなまちをめざそう』  
コーディネーター：東京工業大学 環境・社会理工学院 教授 中井 検裕 氏  
パネリスト：LIFULL HOME'S 総研 所長 島原 万丈 氏  
日本大学 理工学部 土木工学科 大沢 昌玄 氏  
立地適正化計画策定委員会 委員（公募市民）江崎 奈穂子 氏  
戸田市長 菅原 文仁

### 第1部 基調講演『テーマ：本当に住んで幸せなまちとは』

LIFULL HOME'S 総研 所長 島原氏による著書『本当に住んで幸せな街「官能都市」ランキング』に示されている考え方や趣旨についての紹介と、本当に住んで幸せな街を目指していくためのヒントについて提案をした。

都市が再開発によって均質化していくことや、街から個性を失わせ、魅力を低下させていると指摘した。具体的には再開発が行われた都市が上位にある「住みよさランキング」等の都市評価手法に疑問を投げかけた。

人口が減少し、都市がコンパクト化を目指す中で「病院病床数や店舗面積など、施設の多さ、広さ」といった規模に係る評価が行われている。これに対し、都市を魅力評価する新しい物差しが必要であると考え、「街は人々が歩き、立ち止まり、眺め、交流するのに適した条件を備えていなければならない」ということを前提とし、「センシユアス指標」と呼ぶ新指標を提案した。

センシユアス指標は、感覚的なものを定量的に見出すために、項目を「動詞」で表すことが特徴であり、「お寺や神社をお参りした」「平日の昼間から外で酒を飲んだ」「地元でとれる食材を使った料理を食べた」「通りで遊ぶ子供たちの声を聞いた」「デートをした」といったものであり体験の有無を問うものである。島原氏は、センシユアス度の高い街には、小さな居酒屋などが集まった横丁、個人経営のこだわりのカフェ、デートに使える雰囲気のレストランといった特徴的な飲食店の多様な集まりが多いという。ま

た、センシユアス度が高い都市は、「年齢・職業・収入など多様な人が住んでいる」「外国人がたくさん住んでいる」「夜間に女性がひとり歩きをしても不安はない」「夫婦共働きがしやすい」といった「多様性が高い」特徴があるとした。さらに、都市における多様性の向上のためには、それを受け入れる人々の「寛容性」が重要な要素であるとした。

戸田市については、非常にきれいに整備されたまちで、新しい建物が沢山建っており、素敵な公園もある。現状の戸田市は、センシユアスであるとは言えないが、ポテンシャルのあるまちであると考えれば最後に締めくくった。



## 第2部 戸田市立地適正化計画素案の概要説明

戸田市立地適正化計画により戸田市がどのようなまちづくりを目指すのかを観点とした説明をするとともに、市民パブリックコメントの実施について積極的なご意見を頂くためのPRを行った。

## 第3部 パネルディスカッション『テーマ：本当に住んで幸せなまちをめざそう』

将来訪れる人口減少社会においても、本当に住んで幸せなまちを実現させるためには、どのようなまちづくりが必要となるかについて、中井氏、大沢氏、江崎氏、島原氏、市長によるパネルディスカッションを行った。戸田市を幸せなまちにするためのポイント等についてディスカッションを行い要旨は次のとおりである。

- ・歴史的なものと、新しい魅力や発想をミックスさせ、みんなで共感できるまちにすることが大切である。
- ・身近にまちを実感したり、意識できることが大切である。まちをゆっくり眺めたり、歩いてみたりすることが発見と変化につながる。
- ・鉄道3駅周辺を拠点としてどのように育てていくかが重要であり、駅前を人々が集まる、溜まる場にしていくことが大切である。
- ・幼少のころからまちについて考えてもらう機会があると、まちへの愛着につながる。
- ・水辺などにロマンスの要素を高めていく場所が増えると良い。人々がそれらを寛容に捉えられるようになると、センシユアスなまちにつながっていく。
- ・戸田らしいサードプレイスをみんなで考えること、それが本当に住んで幸せなまちづくりの出発点である。

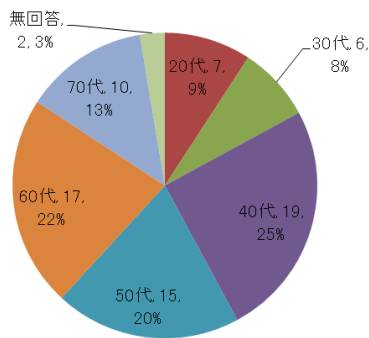


参加者アンケート集計結果

(アンケート協力者 : 76名)

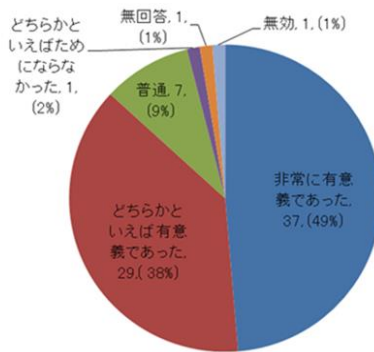
●参加者の年齢層

バランスがとれた年齢構成となった。



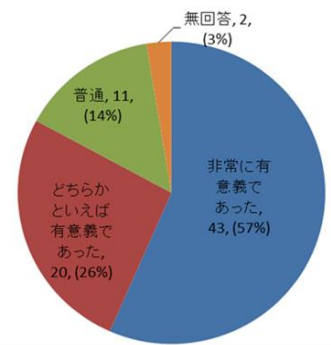
●本日のフォーラムを通じて、いかがでしたか？

「非常に有意義であった」「どちらかといえば有意義であった」を合わせると87%となった。



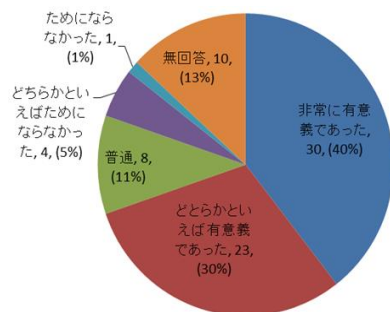
●基調講演は、いかがでしたか？

「非常に有意義であった」「どちらかといえば有意義であった」を合わせると83%となった。



●パネルディスカッションは、いかがでしたか？

「非常に有意義であった」「どちらかといえば有意義であった」を合わせると70%となった。



●その他、ご意見やご感想等（自由回答）

- ・このフォーラムは特に若い参加者も多く、老若男女大勢の方々が参加されていて驚いた。
- ・人口が増加していく中で、人口減少の時代の到来を考慮し、先進性をもったまちづくりを進めてほしい。
- ・戸田市のイメージ=ベットタウン。これでよいとするのか、付加価値を高めていくのか、考えるひとつのきっかけになった。
- ・街づくりは従来の考え方にとらわれず、新しい視点からの発想に基づき、実施することが大事だと思った。
- ・おもしろい視点だったと思う。戸田に欠けているものが容易に想像できた。
- ・高齢社会におけるまちづくりの危機意識がよく感じられた。
- ・サードプレイスの話は、今後のまちづくりにとても重要であると感じた。
- ・市長、パネリストの意見や考え方、手法がとても興味深く、戸田市における今後の住まい方、考え方について様々なヒントをもらった。
- ・災害時の対応も考えた話がほしかった。

●立地適正化計画の概要はいかがでしたか？

「非常に有意義であった」「どちらかといえば有意義であった」を合わせると50%となった。

